不平等意識が他者への信頼および敵意に及ぼす影響

○荒井 崇史

(追手門学院大学心理学部)

キーワード: 不平等意識, 信頼, 敵意

The Impact of inequality on the trust to others and the hostility.

Takashi ARAI

(Faculty of psychology, Otemon Gakuin University)

Key Words: inequality, trust, hostility

問題と目的

“格差社会”, “子どもの貧困率”などが話題に取り上げられ, 問題視されているが, 実際に不平等意識は我々にどのような影響を及ぼしているのであろうか。

こうした疑問に対して, Wilkinson(2005 池本他訳 2009)は, 格差社会が, 我々の健康状態でさえも蝕むことを指摘している。そして, 格差社会が健康を害するメカニズムとして不平等意識が, 不信に満ち, 暴力的な社会をもたらすことを様々な多くの研究のレビューを通して明らかにしている。

しかし, Wilkinson(2005 池本他訳 2009)の指摘は, 主として欧米の研究知見に基づいた議論であり, 日本にこれらの知見が当てはまるのかはわからない。欧米と比較して, 文化的, 価値観的に異なる日本では, 必ずしも同じ結果にならないかもしれない。また, 集団内での協調性を重視する社会では, 一度, 他者への信頼が破綻すると, その影響は欧米以上に強烈なものとなる可能性も考えられる。

以上を踏まえて, 本研究では, Wilkinson(2005 池本他訳 2009)の提案する因果モデルを参考に, 世帯年収の低さが不平等意識を作り上げ, その不平等意識が信頼を低下させることを介して, 他者への敵意を高めること, そして他者への敵意が実際の人的資源や他者との交流機会を減少させると仮定し, この仮説モデルを検証することを目的とした。

方 法

調査対象者 インターネット調査会社 “Macromill” の保有するモニタから小学生の子どもを持つ母親を対象にインターネット調査を実施した。具体的には, 全国を 10 地域に分割し, 各地域の平成 22 年国勢調査の既婚女性数に, Macromill のモニタから算出した “20~69 歳既婚女性で子どもを持ち, かつ末子の年齢が 7 歳~12 歳の母親” の割合を乗じた値を算出し, 各地域の目標サンプル数とした。その上で, モニタに調査依頼を送信し, 参加に同意を得られた場合にのみインターネット上で回答を求めた。最終的に, 所得に関する質問に, “わからない”, “回答したくない” と回答した者を除外し 611 名 (平均 39.43±4.93 歳) を分析対象とした。

調査内容 (1) **不平等意識 (格差意識)**: 日本の一般的な家庭と比較して, 自分の家庭が裕福かどうか, 日本は平等な社会であると思うかなど (4 項目, 6 件法)。(2) **世帯年収**: 200 万円未満から 200 万円ごとに選択肢を設定し, 該当する世帯年収に回答を求めた。(3) **一般的信頼**: “ほとんどの人は信頼できる”, “ほとんどの人は基本的に正直である” の 2 項目 (6 件法)。(4) **敵意**: 日本語版 BAQ (安藤他, 1999) の敵意因子 7 項目 (6 件法)。(5) **人的資源**: 愚痴を言い合える人, 悩みを相談できる人など 5 項目 (5 件法)。(6) **交流機会**: 友人や近所の住人, 趣味の集まりなど他者と関わる頻度 (8 項目, 5 件法)。(7) **その他**: 年齢, 職業など

調査時期 2014 年 3 月 10 日~3 月 12 日

結 果

本研究では, 世帯年収の低さが不平等意識を作り上げ, その不平等意識が信頼を低下させることを介して, 他者への敵意を高めること, そして他者への敵意が実際の人的資源や他者との交流機会を減少させると仮定した。この仮説モデルを検証するために, 構造方程式モデリングによるパス解析を行った。分析の結果を Fig. 1 に示した。適合度指標は, $X^2_{(6)} = 8.41$ ($n.s.$), $GFI = .995$, $AGFI = .984$, $CFI = .997$, $RMSEA = .026$ であった。結果を見ると, 世帯年収が低いほど不平等意識が強くなり, 不平等意識の強まりが一般的信頼の低下を介して, 他者への敵意を高めていた。そして, 他者への敵意が高まることで, 人的資源や他者との交流機会が減少していた。また, 不平等意識は直接的に敵意を高め, かつ人的資源や他者との交流機会が減少させていた。なお, 世帯年収から各変数へ直接的なパスを仮定した場合, いずれのパス係数も統計的に有意なものではなかった。

実線は正のパス, 破線は負のパス。誤差変数は省略し, いずれも $p < .01$ 。

Fig. 1 不平等意識が他者への信頼および敵意に及ぼす影響

考 察

本研究では, Wilkinson(2005 池本他訳 2009)が提案する因果モデルを参考に, 世帯年収の低さが不平等意識を作り上げ, その不平等意識が信頼を低下させることを介して, 他者への敵意を高めること, そして他者への敵意が実際の人的資源や他者との交流機会を減少させると仮定し, 分析を行った。その結果, 日本においても仮説モデルを支持する結果が得られた。すなわち, 世帯年収の低さが, 主観的な不平等意識を醸成し, そうした不平等意識が相互不信や相互敵対的な社会, あるいは他者とのつながりの弱い社会を作り上げるものと考えられる。

引用文献

- 安藤明人・曾我祥子・山崎勝之・島井哲志・島田洋徳・宇津木成介・大芦治・酒井明子(1999)日本語版 Buss-Perry 攻撃性質問紙(BAQ)の作成と妥当性, 信頼性の検討 心理学研究, 70, 384-392.
- Wilkinson, R. G. (2005). *The impact of inequality: How to make sick societies healthier*. New York: The New Press.
- (池本幸生・片岡洋子・末原睦美(訳)(2009). 格差社会の衝撃—不健康な格差社会を健康にする法— 書籍工房早山)